

## 平成28年度第3回 草津市上下水道事業運営委員会

日時 : 平成28年10月19日(水) 10:00～12:00  
場所 : 草津市役所 4階 行政委員会室  
委員出席者 : 山田委員長、青山委員、宇野委員、小寺委員、佐野委員、  
田中文子委員、田中佳子委員、西谷委員、馬場委員  
事務局 : 西村部長、川崎副部長、辻川副部長、松永課長、島田課長、  
横山課長、寺田課長、岡田課長、原田グループ長、安土グループ長、  
松永グループ長、田中グループ長、澤主任

### (議事趣旨)

#### 1. 開会

委員9名全員に出席をいただき、事務局により開会を宣言した。

#### 2. 挨拶

【西村部長(事務局)】挨拶

#### 3. 議事

議事に入り進行を事務局から山田委員長へ交代した。

(1) はじめに及び(2) 下水道事業の現状と課題について(資料1 3ページ～9ページ)  
事務局よりスライドを用いて説明した。各委員の質疑応答は以下の通りである。

### ■質疑応答

【委員】財政指標の中で、企業債残高対事業規模比率が課題とのことだが、繰上償還などの対応を考えているのか。

【事務局】繰上償還は考えていないが、今後の状況を踏まえて、先を見通した上で目処を立てていきたいと考えている。

【委員】後で説明があるかと思うが、前回委員会で一般会計からの繰入金無くし、借入金とする場合、赤字決算になる結果であったが、繰上償還に財源を回して対応することも一つの手段であるかと思う。

【事務局】資金が落ち着いた時点で、状況を見極め、そういう対応が可能かどうかを検討していきたいと思う。

【委員】他都市との比較で、全国平均よりも高いと聞くと、一般的には聞こえはいいが、各市町村によって建設時期も異なり、単純に全国平均とは比較できない。草津市独自の状況を踏まえた残高比率も考慮した上で目標を立てることがいいのではないかと。徐々に建設して徐々に回収すればズレは大きくないが、投資と回収した時期が大きくずれるため、どれぐらいの期間で何パーセントを目指すなどのスケジュールが大事だと思う。全国平均と言わないほうが得策だと思う。

【委員】集中的に建設された時期はいつごろか。

【事務局】1984年から2004年の20年間に事業は集中している。参考資料の5ページのグラフのとおりである。

【委員】京都から大津、草津に引っ越したが、料金が高額であることに驚いた。琵琶湖に近いことが理由であるかと思った。

【事務局】京都は戦前から事業を実施されているなど、建設時期の違いなど背景が異なるからかと思う。

【委員】京都も去年値上げをし、大津市もかなり安い料金であったため料金の値上げを行っている。草津市も驚くほどの高い料金ではない。

【委員長】企業債の金利をどれくらいで借りているかにもよるし、一般会計も草津市として何か借り入れがある場合、そちらの利息と比較して、一般会計から繰入をして繰上償還をしたほうが有利かどうかを検討するべきである。ここ20年間で金利も大きく変わったのではないか。

【事務局】過去の方では高金利で借りていることもあったが、国の政策で5%以上のものは借り換えできるという制度を活用し、今は5%以下の金利分しか持っていないため、金利は下がっていると思う。

【委員】経営計画の13ページについて、下水道使用料の改定が必要であると記述があるので、値上げする意思表示に見えてしまうので、記述を再考したほうがよいかと思う。

【事務局】経営計画の策定期間に合わせて下水道使用料の検討が必要ということで、値上げをするという意味ではない。書きぶりを再考する。

### (3) 事業運営の目標について（資料1 10ページ～13ページ）

事務局よりスライドを用いて説明した。各委員の質疑応答は以下の通りである。

#### ■質疑応答

【委員長】結論が先に書いてあって、その範囲でリスクの抑制とか経営の効率化とかが示されている。先に制約を書いた上での政策の説明となっている。目標を先に書いて必要な政策を考えたところ現行の使用料で維持しますという内容がよいのではないかと思う。結果的には同じことなのだが、若干、違和感を感じる。

【事務局】見せ方の問題であるが、各順番を再検討したいと思う。

【委員長】必要な施策を検討した結果、現状の使用料を維持できるという書き方がよいと思う。

【事務局】使用料の維持を目標に変更を検討する。

【委員】雨水の誤接続があるとのことだが、なぜ業者がやっている工事でこのようなことが起こるのか。誤接続があるとすれば、どの程度あるのか。

【事務局】業者の問題として、滋賀県の場合、草津市は雨水と汚水を違う管で流している。京都市は雨水汚水を同じ管で流す方式で、たまたま京都の業者が工事を行った場合は、誤解して工事をしたということも起こっている。また、例えば古い団地内の浄化槽の場合、元々雨水と汚水を一つの管で流していたものを公共下水へ接続した場合も考えられる。市内の誤接続の件数については、正確な数値を把握できていないため、今後の調査ということになる。

【委員】浄化槽から下水道へ接続した時に、大津の業者は雨どいを下水へ接続していた。大津の業者はこれで良いと言っていたが、その後、草津市の業者はきっちり分けて対応してくれた。このような事が無いように、業者をよく把握して指導・検査にあたってほしい。

【事務局】御指摘有難うございます。このような事が無いように、業者を指導していきたいと思う。

【委員】今はマンホール蓋について、孔がなくて雨水が入らないようになっているようだが、あと何箇所くらい交換して、今後いくらかの費用がかかるのか。

【事務局】参考資料の27ページに示すように、新しいタイプは蓋が飛ばないような仕組みになっている。事業量は23ページのとおり対象は4,700枚で、2,000枚は交換が完了しており、残り2,700枚の交換が必要である。費用は6億2千万円程度を見込んでいる。

【委員長】雨の侵入に対して、蓋の交換がどの程度影響しているかは検証が難しく、分からない。誤接続と路面からの侵入とどの程度かわかるようになったのか。

【委員】検討会でも調査をやっていこうと今始まったところである。発生源対策としてモデル的に実施しながら拡大して全容を把握しようとしている。

【委員長】原因別に特定できるところまではいっていないということか。原因がわかればどこを重点的に対策すればよいかかわかると思う。

【委員】そういう分析とか統計的なアプローチは大学のほうが向いているのではないかと思う。

【委員】不明水を明らかにする技術は中々難しく、全国的にも問題になっている。今のやり方も含めてまずは調査する手法を確立できればと思う。

【委員】参考資料の21ページの現行使用料の維持の第二段落で、「一般会計で負担する経費と区分を行った上で、汚水処理にかかる費用を使用料で賄っている」という微妙な表現となっている。それに対し、12ページでは経費回収率86%となっているので、統一されていない。合わせた表現でないと誤解を招くのではか。

【事務局】見せ方の問題も含めて、そういった形で対応させて頂く。

【委員長】参考資料の25ページで、雨水整備の実績と計画で目標が20.5パーセントとなっているが、市民目線では目標が低いような印象を与える。近年、浸水被害も増えてきていることから、雨水整備の取り組みに関して、コメントを充実させたほうがよい。

【委員】資料では具体的な数値目標を示しておらず、実施していくという記述になっている。

【委員長】農業用排水路なども含めて、下水による浸水対策はすぐにはできないだろうが、最近では災害も増えているので市民からみて頑張っている感が分かった方がよいかと思うというのが感想である。

#### (4) 財政計画について（資料1 14ページ～22ページ）

事務局よりスライドを用いて説明した。各委員の質疑応答は以下の通りである。

#### ■質疑応答

【委員長】一般会計からの借入金の金利は見ているのか。

【事務局】利息はなしでお願いしたいと考えているが、まだ一般会計側とは交渉は成立していない。今後検討していく。

【委員】参考資料の34ページの図に借入金を記載しないと、表と突き合わせた場合、違いが生じる。借入金は一般的に収益的収入にいれないので、スライド17ページの図を変更する必要がある。借入金を収入として考えていることが分からないといけないと思う。

【事務局】今回の経営計画期間以降ではあるが、総務省から作成を求められている経営戦略には10年

間の収支予測を載せる必要があるので、このグラフの見せ方については再考する。

【委員】繰入から借入に変える意思決定者は、誰になるのか。

【事務局】市長になる。平成34年度以降については予測であり、もう一度検討が必要であるが、意思表示はしている。ただし、平成34年度以降の経営計画策定の際に、もう一度検討していくことになる。

【委員】収益的収支に借入から出てきた利益が出ているが、減価償却費と組み合わせて資本的収支の補填財源となるが、借入については返さないといけないので、ダブルカウントになるのでは。

【事務局】一旦は借入を行い、内部留保資金に含まれる形にはなるが、グラフには借入を返した後の推移を示している。

【委員】考え方が難しいが、借入金を収益的収支に含めてしまうとまずいようにも思える。

【事務局】どちらにしても平成34年度には借入にすると欠損が出るので、こちらに関しては市民にお知らせして行く必要があると考えている。借入金は、収益的収支に入らないため、企業債（借入金）残高に突然現れる形になる。

【委員】借入金は見えない数字でなおかつ内部留保資金勘定には入ってくると思う。

【事務局】決算書には、借入で賄ったことを文章で入れる形にはなるが、収益という形ではない。

【委員】気になるのは平成28年度から平成30年度の大きな工事を計画されているが、補填財源も無い感じであるが、収支の均衡は図れている。

【事務局】資金的に均衡した状態でバランスをとることを考えている。

【委員】バランスをとるように企業債を新規で借入れて、昔の借入を返していき、結果としてゼロとなるようにしている。下水で独立採算を考えた場合、分流式下水道に係わる繰入も見込まない考え方は悪いことではないと思う。長期的にも借入を返し、内部留保も10億円程度で推移する。見せ方の問題はあろうと思う。

【委員長】委員会としては、不足分を繰入としてきたが、今後は借入として良いかということである。下水の立場からすれば厳しいが、一般会計側からすれば少しでも負担が減るほうがよい。このような提案である。

【委員長】建設改良費の見込み方がよくわからない。アセットマネジメントで立てていると思われるが、先行投資も合わせて見込んでいるのか。

【事務局】分かりやすい記述で工夫するが、経営計画期間で大きな投資は農業集落排水の公共下水への接続である。その他は新規整備やマンホール蓋の取替えである。改築更新については、約1億5千万円程度を見込んでいる。

【委員長】改築更新額が多いのか少ないのか分からないが、アセットマネジメントで現在の施設が全部更新されていくことを考えると、改築更新の1億5千万円が高いのか安いのか。

【事務局】現在、見込んでいるのは全部更新していくのではなく、被害があってはならない重要路線を優先して整備していく考えで事業費を算定している。

【委員】参考資料25ページの雨水事業に関しては費用を見込んでいないのか。

【委員長】雨水は国の施策と大きく絡むため、勘定外になっている。

【事務局】雨水事業については、22ページに示すように経営計画期間内で長期的な見通しという形とはなっていない。建設改良費についても横ばいになっている。すべて一般会計からの繰入で賄っているため、この金額で推移する見込みを立てている。

【委員】雨水は同じペースで事業が進むだろうし、何かあったとしても一般会計からの負担を考えているということですね。

【委員長】国からの交付金との関係を記述する必要は無いかな。交付金の裏打ちがあれば、事業を実施していけると思われ、市民に対しても安心感を与えられる。

【事務局】汚水事業についても主要な管きょに関しては国の補助金を頂いて事業実施している。雨水についても主要な管きょについて主に整備をしているが、国の交付金は国の配分によって決まってくる場所があるので、なかなか明記することは難しいと考えている。

【委員長】農集排の接続について、一般的には更新より接続がいいとされている。結論は書いてあるが、具体的に記述されるのか。

【事務局】前回の経営計画時にも示しているが、どういう比較しているかという経緯を今回提示していないが、比較検討結果で更新より安くなるという考え方を示していく。

【委員】長期に計画を立てられるが、自然劣化した管渠の工事は含まれているのか。現状どの程度工事は進められているのか。京都は、更新工事は1.2%程度らしい。そうすると全部終わるのは80年かかることになるが、草津市はどうか。

【事務局】草津市の施設は標準耐用年数には達していない。現在市内で500kmあり、順次変えていくと膨大な費用になる。現在の考え方は、変えなければいけないところから優先的に変える方針としている。何かあれば被害が大きいところを調査し、悪いところを順番に直していくことを考えている。現在、大々的に修繕しているところはない。

【委員】市民に負担がかからないよう計画的に実施して行ってほしい。

【委員】料金を維持した上での試算であることを強く表現した方がいいと思う。料金改定を意図していないということを書いた方がいいかと思う。見え方によっては料金改定をしなくてはならないと捉えられると、こちらの意図とはまったく違うことになってしまう。

【委員長】最初は、目標として維持できるかどうかから始まり、検討の途中でそれを維持するための計画が出てくる。市民側から見ると、税金投入を出来るだけ減らすことが出来ればよいと思う。

【委員】下水への税金の投入は少なくなるが、全体として負担する税金が少なくなるわけではないので、市民から見て誤解の無いような内容にするべきであり、うまく書く必要がある。

【委員】事業体として独立採算を目指していることは評価したいと思う。次年度以降、当該経営計画の進捗管理をしっかりとやりながら、次の経営計画（平成34年度～）を見据えていくことになると思うが、公表していくことが大事だと考えている。

(5) おわりに（進捗管理）及び今後の予定について（資料1 23ページ～24ページ）

事務局よりスライドを用いて説明した。各委員の質疑応答は以下の通りである。

【委員長】今回が最後の委員会であり、今後は私の方で確認した上で、答申としてお出しすることの了解をいただきたいと思うが、よろしいか。

【委員全員】了承

【委員長】それでは今回の審議で委員会の審議を終了し、後日市長へ答申させていただくこととする。

#### 4. 閉会挨拶

【川崎副部長（事務局）】挨拶